

広域連合について

(質問) 高齢化が進む中で、介護保険事業計画は重要だが、本市の介護保険事業は亀山市との広域連合で運営され、特別養護老人ホームの整備などは、広域連合が亀山市とのバランスに配慮しながら整備計画をつくるという現状である。また、地区社協や地域づくり協議会との連携や、介護施設側からの要望につ

いて、市が直接対応できず、市議会においても介護保険事業計画の策定や保険料の設定、サービスなどの政策提案ができない。市民へのサービスを市として直接判断できない現状を改善するため、広域連合の解散を求める。

(答弁) 地域、圏域、本市、広域連合が適切に役割を果たしていけるよう連携しつつ、新たな広域連携の仕組みも研究しながら、地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域に根ざした高齢者福祉を推進していきたい。

その他の質問○幼児教育無償化の影響について

高齢者の生活交通について⑥

(質問) 本市は市街地が分散した広い街であり、移動手段を確保してほしいという要求はどの地域にもある。多くの市民が利用できる地域交通を、刈谷市や玉城町のように、市長の思い入れが強いシステムとして作り出してほしい。高齢者の移動手段の確保について、多くの高齢者や交通弱者が望む期待にどう応えるか、市長の思

いと考えを聞く。

(答弁) 高齢化社会が進む中で、お住まいの近くに公共交通機関がない、また、坂道が多いなど、生活していく中で移動手段に不安を感じる方々が増えてきていると肌で感じている。

これまでの公共交通空白地域の定義を見直すとともに、現在、作成を進めている手引書を通じて、その地域の方々と協議を行い、速やかに実証運行を開始し、地域に必要な公共交通を確立していきたい。

その他の質問○白子地区の都市計画道路について

国民健康保険について

(質問) 鈴鹿市の国民健康保険料の金額は、県下14市の中で3年連続トップであり、モデル世帯（40代夫婦と子ども2人の4人家族、自営業で所得300万円）、1人当たり金額とも県内平均より20%高額である。所得300万円の4人世帯で年額60万円もの保険料は、市民の生活を圧迫している。この県下一高い国保料

を見直し、引き下げをを求める。特に子どもにかかる「均等割」（1人4万800円）は廃止または軽減すべきであると考えがどうか。

(答弁) 平成30年度決算および平成31年度の収支バランスの動向を見極めた上で、今後の保険料率について慎重に検討したい。子育て世帯の負担軽減のために、子どもにかかる均等割の軽減は有効であると考え、国に要望している。今後も国の動向に注視しつつ、引き続き要望していきたいと考える。

その他の質問○生活保護基準について

健康福祉施策について

(質問) 65歳以上の方が、高齢者施設で話し相手となるなどの活動により交付金を受け取る「鈴鹿いきいきボランティア制度」と、運動・食事・健康面のチャレンジと健診や健康講座を受けて特典を受け取る「すずか健康マイレージ事業」のポイント制度の現況を尋ねる。多くの方が参加できるよう周知に努め、市民の

負担軽減や還元ができるよう拡充を求める。

(答弁) 現在、ボランティア登録者は145人。評価ポイントは、1時間につき1ポイント、1日2ポイントまで。10ポイントごとに1,000円と交換でき、年間50ポイントを上限としている。昨年度は81人に、22万3,000円を交付した。2020年度までに200人の登録者をめざす。健康マイレージのチャレンジシートを2,600枚配布し、本年1月末で44人が申請している。さまざまな機会を通じ、制度・事業の周知に努める。

その他の質問○予防接種について